

令和5年度 奈良県立畝傍高等学校全日制課程 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命 (スクール・ミッション)	知・徳・体の調和がとれ、自律的・創造的でグローバルな視野をもった、次代を切り拓くリーダーの育成
年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己理解や他者との関わりをとおして、コミュニケーション力の向上を図る。</li> <li>2 社会の一員としての自覚を促し、他者と協働する能力を養う。</li> <li>3 探究的な学びをとおして、主体的に物事を考える習慣や論理的な思考力を養う。</li> <li>4 自分の夢や将来を見据えた進路を設定する力を養い、その実現に向けて弛まず挑戦する強い意志を育てる。</li> </ol>

I スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	<p>入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>本校では、以下のような生徒を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の使命や教育方針を理解し、自らを鍛える意欲のある生徒</li> <li>2 基礎的な学力が身につけており、学ぶ意欲の高い生徒</li> <li>3 自ら学び、自ら考え、自ら行動しようとする姿勢を備えた生徒</li> <li>4 人間尊重の精神をもち、自らの使命を理解して社会に貢献する意欲のある生徒</li> </ol>
	<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>本校では、本校の使命(スクール・ミッション)を実現するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が自らの興味や関心、個性に応じた学びを実現することが可能なカリキュラムを編成します。</li> <li>2 生徒が物事を俯瞰し多角的に考える習慣や、論理的な思考力を身につけられるよう、探究的な学びを中核とした学校設定科目を開設し、未来志向の教育活動を展開します。</li> <li>3 生徒が社会のグローバル化の進展に対応できるよう、語学力やプレゼンテーション力等を養う教育プログラムを実施します。</li> <li>4 開かれた学校として、外部の有識者や研究機関、企業等の協力を得、実社会の課題に即した教育プログラムを実施します。</li> <li>5 生徒が生涯にわたって健やかな生活を送れるよう、自らの健康・安全を保持する知識・技能や体力を育成します。</li> <li>6 生徒が協働・自治の精神や規範意識を身につけられるよう、自ら学校行事等の諸活動を企画・運営する機会を創出します。</li> </ol>
	<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>本校では、校訓である「至誠、至善、堅忍、力行」の精神を涵養し、以下の資質・能力を身につけた生徒を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心の誠実さ、人としての善良さを、何ものにもまして大切にすることができる。</li> <li>2 探究心をもち、目標が達成されることを信じて挑戦し、粘り強く努力し続けることができる。</li> <li>3 グローバルな視野をもち、自らの社会的使命・役割を理解して積極的に行動することができる。</li> <li>4 高い教養、深い思考、豊かな想像力を身につけ、新しい社会を切り拓こうとする気概をもつ。</li> </ol>

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

自己評価、学校関係者評価の基準

A：十分達成できている

B：概ね達成できている

C：不十分である

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D) ①いつ、どのように取り組んだか ②取組の成果	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生徒の健康課題（メンタルヘルス）を踏まえた健康教育の充実	生徒との個人面談を丁寧に行う。スクールカウンセリング制度のさらなる周知を行う。	個人面談の実施年3回以上 電子掲示板を活用したスクールカウンセリングの紹介と啓発月1回以上	<p>【生徒指導部】</p> <p>①担任の先生方を中心に、生徒との個人面談を年3回以上実施。1学期に「こころとからだのアンケート」を実施。生徒のストレス症状を把握し、個別面談や特になる生徒には「生徒見守り会議」を行った。電子掲示板を活用してスクールカウンセリングの紹介と啓発を定期的に行えた。②生徒の心身の状況把握や目標に向かって前向きに取り組む手助けが出来た。「生徒見守り会議」でピックアップした生徒に対して、個に応じた適切な支援を実践できた。③教員と生徒との関わりをこれまで以上に深め、生徒の健康教育の充実をさらに高めていきたい。</p> <p>【第1学年】</p> <p>①4月初めと2学期の計2回、新生活の始まりと次年度の類型科目選択をする際に担任と生徒との個人面談を実施。他、必要に応じて個人面談を実施した。</p> <p>②担任の先生が丁寧に面談を行った結果、類型選択後の変更を願い出る生徒は全くなし。</p> <p>③多忙な中でも、生徒の様子に変化が見られた場合は速やかに面談を実施し、一人ひとりの声を聞くことができています。次年度も生徒の様子を細やかに観察し指導したい。</p> <p>【第2学年】</p> <p>①4月始めと2学期に次年度の類型科目選択のための個人面談（調査時・本登録時）を実施。その都度必要に応じて個人面談を実施。</p> <p>②不登校傾向にある生徒も面談や保護者との連携、スクールカウンセリングの活用などにより順調に登校できるようになった。</p> <p>③生徒の変化に気づき、個々に応じた援助を実施していきたい。</p> <p>【第3学年】</p> <p>①・4月、6月、7月、10月、12月、1月に面談を実施した。その他にも、生徒がストレスを内に抱え込んでしまう前に声をかけるように努め、年間を通じて随時、生徒や保護者と数多くの面談を行った。</p> <p>・スクールカウンセリングを紹介し、スクールカウンセラーや養護教諭の先生方と連携を図った。</p> <p>・こころとからだのアンケートを実施し、面談を行った。</p> <p>②・3年生になると悩みや不安を抱えた生徒が増えるなか、担任の先生を中心とした助言と指導の継続が、安定した心理状態で生徒一人一人が目標に向かって学習することにつながった。</p> <p>・アンケートの実施によって、表には見えない悩みを抱える生徒を発見することができた。</p> <p>③今後もより丁寧な個人面談を継続していきたいが、その時間の確保が課題である。</p>	A	A	どの学年においても、教員が生徒と向き合う時間を確保することを継続する。学校生活に不安を抱える生徒に継続した声かけをしたり、クラスの仲間同士が親睦を深め、楽しさを実感できる学級活動（学級経営）を実施する。また、カウンセラーや特別支援員と各学年との連携を深めながら、生徒一人一人に合った支援を考える。
	こころの充実と体力・運動能力の向上	体育授業での基礎体力の向上を進める。運動部活動での基礎体力の向上を進める。	体力テストにおける総合評価が全国平均以上	<p>【文化体育活動部】</p> <p>①1学期に体育の授業でおこなった。</p> <p>②男子は3学年とも全国平均以上であった。女子は3年生が全国平均以上だったが、1、2年生は全国平均以下だった。</p> <p>③来年度は測定前の指導を工夫していきたい。特にボール投げは全学年男女共全国平均以下のため、改善に努めたい。</p>	B	B	引き続き、体育の授業やクラブ活動での基礎体力の向上を進める。
	望ましい生活習慣の確立	睡眠時間の少ない生徒への生活習慣の改善指導を行う。	睡眠時間6時間未満の生徒30%以下	<p>【生徒指導部】</p> <p>①電子掲示板等を活用し、睡眠時間の確保及び望ましい生活習慣の大切さを発信した。不注意による遅刻が5回以上の生徒に対して、担任等と連携し生徒に改善を求めた。②学校全体の睡眠時間が「5時間以上6時間未満」の生徒が41.3%、「5時間未満」の生徒が12.6%もいた。あわせると6時間未満の生徒が学校全体の55.6%であった。③全校生徒の55.6%が睡眠時間6時間未満とのことから、文化体育活動部と連携し、望ましい生活習慣を身に付けさせたい。</p> <p>【文化体育活動部】</p> <p>①睡眠についての情報を保健だよりに掲載し、個別指導をおこなった。②しかし、睡眠時間の改善には至らなかった。③今後も情報を発信し、個別指導を続け、改善に努めたい。</p>	B	B	保健の授業においても、生徒に睡眠・食事の身体への影響についてを伝える。教員側も課題の量などを点検する。また、面接などをして他の原因なども分析し、生徒一人ひとりに合った生活スタイルを指導していく。

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D) ①いつ、どのように取り組んだか ②取組の成果	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	各教科での探究型学習の充実	「学びのナビゲーター」の中に探究的な取組を明記することで、教員と生徒それぞれが学習の方向性と計画の理解を深める。課外の講演等への積極的な参加を促す。	生徒の授業評価での満足度平均75%以上 エンパワーメントプログラム参加者30人以上 出前講義等への参加者毎回20名以上	【教頭】 ②授業評価での満足度平均85.07% 【教務部】 ①「学びのナビゲーター」を作成し、4月当初に生徒へ配布した。 ②各科目の授業において、活用してもらっている。 ③「学びのナビゲーター」の中に、生徒へのメッセージとして、どのような生徒を対象としているのかを明記してもらう。 【教育企画部】 [出前講座等]①～③ 出前講座等今年度は、第1学年対象の講演会を「探究基礎」とLHRを組み合わせることにより、学年の生徒を対象にした講演の機会を3回持つことができた。今年度課外で実施した出前講座の機会は3回(11月に2回、1月に2回)であった。いずれも「課題研究α」の公開講座もしくは座談会の形式で実施をし、参加者が20名を超えるものもあれば、10名程度の時もあった。直接講師の先生に質問をするなどキャリア設計の意識が高まった生徒も多くいた。生徒が参加しやすい時期を探りながら、これまで実施してこなかった夏期休業中の実施等も検討していきたい。 [英語で学ぶ「思考法」プログラムの実施]①～③ 新たな取組として生徒募集をした。参加生徒はプログラム受講の前後で英語使用に対するモチベーションに上昇が見られたようで、夏期休業中に短期留学を検討している生徒もいる。募集実施の時期等について見直しすることで、参加生徒を集めたい。	A A C	B	今後も、生徒たちが自主的に学び、考え、探究していけるような授業を工夫する。また、課外の講演等への参加の意識づけの強化と参加しやすくなるように実施(募集)日程の調整を行う。  授業改善のために教員が互いにもっと多くの授業を見学できるような期間を設ける。
	ICTを活用した教育の推進	各科目でICT機器を使った授業を必ず行う。	授業やHRにおけるICT活用率70%以上 教員の情報活用能力80%以上	【教頭】 ②・学校行事やHR、出席停止や欠席者に対するオンライン授業など、100%の教室でICT機器を活用した。 ・R4年度の教員情報活用能力は89.7%、R5年度は88.2%であった。 【教務部】 ①毎日の教育活動の中で電子黒板を中心にICT機器を使用している。 ②生徒へわかりやすく展開をしている。 ③全員の先生方がICT機器を簡単に使用できるようにしていく。 【第1学年】 ①2学期開始時期、各教室に電子黒板が設置されてからは、教科やHR、SHR等においてもICTを活用した。②授業展開が広がり、生徒に考えさせる時間や話し合い・交流させる時間を多く作り出すことができた。③ICTを活用することで、教師の授業準備時間や事務作業時間を軽減し、生徒と関わる時間を増やせるようにすすめたい。 【第2学年】 ①昨年度に引き続き、授業やHRにて個人端末や電子黒板を活用した。昨年度同様、朝の連絡は毎日google クラスルームに入れ、生徒が個人端末で見られる状態にした。②google クラスルームやロイロノートを活用し、生徒の解答や考えを全体に共有し、議論させることができた。③来年度の演習中心の授業に向け、さらに活用方法の工夫をしていきたい。	A B A A	A	授業で生徒が個人端末を効果的に活用できるように、さらなる工夫を行う。  来年度の教員情報活用能力90%以上目指し、教員がICTを今以上に効果的に活用できるように研修などを実施する。
	新教科「グローバル探究」の研究・推進	「探究基礎」の取組を具体的に展開し、研究を推進する。「グローバル探究」での取組が、生徒の学びや進路選択に有機的につながるよう働きかけをする。	外部有識者の助言を仰ぐ機会を年3回 生徒対象とした意識調査を年2回 「課題研究・理数探究」「探究基礎」についての生徒の満足度70%以上	【教育企画部】 ①～③研究開発学校の運営指導委員会を3回実施していただいた(7月、11月、2月)。7月には1学期の取組及び2学期以降の内容について、2学期は文部科学省の視察日に、また、3年生による課題研究発表や2年生による探究成果発表会において発表生徒に対してご助言を賜るとともに、教科グローバル探究全般に関わり具体的にご助言・ご指導をいただいた。生徒対象に実施した意識調査及び授業アンケートでは、2年生の84%の生徒が、「面白いテーマに出会えた」と肯定的な回答をしている(12月時点)。また1年生の75%の生徒が「探究基礎」の授業は面白いと回答をしている(2学期末)。「探究基礎」については、その内容を精査するとともに、「探究週」の効果的な設置等について運営指導委員のご指導を仰ぎながら次年度に向けて整理をしたい。	B	A	課題研究・理数探究での生徒の活動補助のあり方の工夫と検討を行う。  「課題研究」に限るのではなく、あらゆる場面での探究的なものの考え方や見方の積み重ねが、生徒に浸透していくようにさらなる仕組みを作る。
	学校における働き方改革	勤務時間・健康管理を意識した働き方を推進する。	学校閉庁日の設定年間2日以上	【教頭】 ① 8月14日・15日を学校閉庁日とした。②職員の大半が、夏季休暇と合わせて、お盆休みがとれているように思う。③職員1人ひとりが仕事の優先順位や時間配分を考えながら、「働き方改革」の意識を高めていく必要がある。	B	B	職員一人ひとりが、「働き方改革」の意識を高める工夫をする。

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D) ①いつ、どのように取り組んだか ②取組の成果	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	探究型学習の発展型としての生徒のキャリア意識の醸成	探究の取組を通して、「自らを理解する力」を育成する。模擬試験や校外テストを分析し、自己理解を深めさせ大学入試につなげる。	探究の取組と進路選択を関連づけて考えられる生徒50%以上 共通テスト平均得点率70% 総合型・学校推薦型選抜での国公立大学合格者20名	<p>【教育企画部】</p> <p>①～③11月及び2月に、2年生対象に実施した「課題研究・理数探究」の意識調査では、探究の取組と進路選択との関連づけについて11月時点で30.5%、2月時点で38.2%の生徒が進路選択の意識に変化があったと回答している。</p> <p>【進路指導部】</p> <p>①模擬試験の採点データを分析し、本校生徒の傾向や弱点を各教科と共有。それを授業や講習に具体的に取り入れ、生徒にも復習のポイントが分かるような資料を提示した。②今年度の共通テスト平均得点率は68%程度であった。2月13日時点での国公立大学推薦合格者の合計は18名である。③難関国公立をはじめ、各大学の入試問題の研究を教員間で広める取組にも力を入れていく。</p> <p>【第3学年】</p> <p>① 模試や定期考査では、点数や判定よりもできなかったことを分析し今後につなげることが大切であると常に強調してきた。共通テストの得点は、模試の成績より著しく伸長した。</p> <p>②・得意なこと、苦手なこと、深めたいことなどを、自己分析して学習に取り組む生徒が増えた。</p> <p>・入試本番を前に、粘り強く取り組んでいる生徒が多く見られた。</p> <p>③・探究の授業と教科の授業をもっと結びつけていきたい。</p> <p>・今後も、目標を見据え、粘り強く取り組む姿勢を涵養していきたい。</p>	B  B  A	B  B	<p>模擬試験のより効果的な活用法を研究する。類型や生徒の状況に応じて、基礎基本を定着させるための講習のあり方を検討する。</p> <p>「課題研究」に取り組む中で、自分の将来に繋げていく視点を持ち、視野を広げていく指導の工夫を行う。</p>
	企業人や学識経験者による出前講義の充実	分野を問わず学校外から講師を招聘し、生徒が「ほんもの」に触れる機会を創出する。	出前講義年間10回以上	<p>【教育企画部】</p> <p>①～③昨年度に引き続き、「ほんもの」との出会いの創出に努めた。分野を問わず15名の方々を招聘し、実施の形態を工夫することにより、多くの生徒がその機会を享受できるような工夫をした。第1学年で「探究基礎」を新設したことにより、学年全員を対象とした講演会を継続実施できたことに加え、課外の座談会など、講演会の形式にとどまらない形態で実現できた。学年を問わず参加生徒たちは、直接質問をするなど、自身のキャリア設計について考えを深める機会をいただけた。</p>	B	A	課外で実施する場合の生徒への周知・参加の促進については、日程調整など学年や他分掌とも連携をとりながら、より多くの生徒が参加できるように企画する。
	キャリア教育の充実	インターンシップやアカデミック・インターンシップへの積極的な参加を促す。生徒の実態を分析することで、講習の内容をさらに充実させる。	インターンシップやアカデミック・インターンシップへの参加者15名以上 3年生の模擬試験での平均偏差値を年間で5ポイント上昇	<p>【進路指導部】</p> <p>①本校生が多く志望する大学の公開講座の案内を積極的に行った。3年生に対してはレベルや目標別の講習や添削指導を行った。年間予定以外でも、入試問題対策として各教科での自主講習を開講した。②2学期末時点で、インターンシップおよび進路指導部から案内した大学公開講座への参加者は、延べ20人である。3年生の模擬試験の成績は年間で3.2ポイント上昇した。③例年、3年生の秋以降に急激な成績の伸びが見られるが、1、2年生の期間からある程度の成績を保てるような取組が必要である。生徒個々で必要な学習は異なるため、個別に課題を設定するようなシステムを取り入れる。</p>	B	B	大学でのインターンシップや公開授業等についても情報を集め、長期休業期間等を利用し参加を呼びかける。成績に関しては、各教科3年間の計画を立て、学年間の連携をとりながら教科指導を進める。

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D) ①いつ、どのように取り組んだか ②取組の成果	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会を少なくとも年2回実施する。	学校運営協議会の開催 年3回	【教頭】 ①第1回7月11日(火)、教育方針、学校評価、教科書採択(令和6年度)、学習指導・進路指導・生徒指導、研究開発学校事業についての審議、第2回12月1日(金)、授業参観(1年探究基礎)、生徒による授業アンケート結果を基に授業について協議、第3回3月4日(月)、学校評価について審議。②昨年度は、主に委員の方々に学校の取組を知っていただき、今年度は進路指導(留学なども含む)や探究授業においてより活発な審議をいただき、関心と期待を持っていただいている。③学校の取組が地域に開かれるよう、委員の方々の関心や助言を具体的な取組につなげられるよう考えていきたい。	B	B	学校の取組が地域に開かれるよう、委員の方々の関心や助言を具体的な取組に今以上につなげられるよう考える。
	海外留学や国際交流の促進	各種、留学支援情報を効果的に発信し、参加を促す。オンラインによる海外交流も実施する。	海外への留学生(短期を含む)5名以上 オンラインによる海外交流 年3回。	【教育企画部】 ①～③7月に生徒対象に実施をした海外留学に関する意識調査から関心のある生徒について、個別に相談等の時間を設けたが、今年度中に実際に留学の決断に至る生徒はいなかった。次年度の夏に短期留学を検討している生徒は複数おり、中には長期の留学を検討している生徒もいる。またオンラインによる交流については、1回の実施となったが、参加生徒は大変意欲的であり、文化背景の異なる学生との交流については発展的に持続できる方法を模索していきたい。	C	C	オンラインによる海外交流を増やししながら、文化背景の異なる学生と触れ合いを持つことで、より視野を広げ留学実施につなげていきたい。
	地域との協働や連携の充実	生徒会・委員会活動・部活動・家庭クラブでの取組を拡充する。	生徒会・委員会活動・部活動・家庭クラブによる地域連携活動 年4回以上	【文化体育活動部】 ①夏期休業中、文化祭、冬期休業中および2月にそれぞれ地域連携活動を行った。 ②地域福祉団体と協力し、高齢者サロンの訪問や子ども教室の活動サポートを行った。また学校行事に地域の方を招待し、生徒会が中心となって交流活動を行った。 ③次年度は生徒会だけではなく、多くの生徒が参加する活動にしていきたい。 【環境整備部】 ①5月と11月に3週間にわたり整備委員と家庭クラブ委員による早朝清掃活動を行った。②校内美化についての意識を高めるとともに、公共心を培うことができた。③今後もこの活動を継続し、本校のよき伝統を継承していきたい。 【家庭クラブ】 ①12月。晩成幼稚園児を招待し、書道と一緒にすることで交流した。3月。希望者で晩成幼稚園を訪問し、交流した。②書道では高校生が墨のすり方、筆の持ち方等々を教え、園児に作品を完成させた。普段接する機会の少ない年代同士が交流でき意義あるものになった。③さらに交流の回数、幅を広げたい。	A  A  A	A	生徒会を中心に、地域との協働や連携する機会が増えてきた。さらに、地域交流を希望する生徒を増やすことで、学校の活性化に繋げていきたい。

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D) ①いつ、どのように取り組んだか ②取組の成果	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の充実	「人権を確かめあう日」の取組を充実させる。人権HRを各学年で計画的に実施する。	「人権を確かめあう日」の取組(生徒向け・保護者向け) 年10回以上 人権HR 学期に1回以上	<p>【人権教育部】</p> <p>①「人権を確かめあう日」を年間9回発行した。そのうちの3回は生徒が作成を担当した。また、保護者向け広報誌「熱れ」を年間3回発行し、本校の人権教育の取組を保護者と共有した。人権HRについては、年間を通して1年8時間、2年6時間、3年4時間実施した。</p> <p>②「人権を確かめあう日」に生徒を対象にした「人権学習に関するアンケート」の結果を掲載しフィードバックに努めた。また、人権芸術鑑賞会の事前資料の作成にも生徒たちが関わることで、生徒の視点を取り入れたものを作成できた。③来年度も、限られた時間を最大限に活かして人権HRの内容の充実を図っていくことが課題である。</p> <p>【第1学年】</p> <p>①毎月11日を基準日とし、SHRで展開した。人権HRを毎学期行った。</p> <p>②毎回違ったテーマが提示され、個々に真剣に人権について考える機会になった。LHRでは、担任の先生方がそれぞれに工夫し、よい雰囲気できっかりと取り組めた。③引き続き、生徒が主体的に考えることができるようにすすめたい。</p> <p>【第2学年】</p> <p>①毎月11日を基準日とし、SHRにて「人権を確かめあう日」の取組を実施した。人権HRを毎学期行った。</p> <p>②人権に関する様々なテーマについて考えるよい機会になった。人権HRでは、各担任の先生方の工夫により生徒たちが主体的に人権について学ぶ機会となった。</p> <p>③これまで学んだことを普段の学校生活に活かせるよう指導していききたい。</p> <p>【第3学年】</p> <p>①「人権を確かめあう日」は年間9回(2回は号外、2月実施予定1回)。6月は3年生HR委員がプリントを作成した。3年生人権HRは4回実施した。</p> <p>②アンケートでは生徒の78%が、人権を確かめあう日について「人権について考えるよい機会となった」と回答した。「人権HRは自分の考えを見直す機会になりましたか」という問いには、生徒の65%が「おおいになった」と回答した。</p> <p>③生徒の70%が、人権について「理解をさらに深めるために、これからはしっかりと学習したい」と回答している。卒業後の学びにつながるきっかけをさらに与えられるように努めたい。</p>	A	A	学校を取り巻く状況の変化に応じ、取組内容を見直し精選していくことで、より新しい視点で生徒の意識を高めていく必要がある。
	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	教員一人一人が生徒のわずかなサインもキャッチするために、定期的にアンケートを実施する。生徒との個人面談を実施する。	いじめアンケートとそれに伴う個人面談を年2回実施 基本方針の点検・見直し 年1回以上	<p>【生徒指導部】</p> <p>①1学期に「いじめアンケート」「こころとからだのアンケート」、2学期に「人権を確かめ合うアンケート」を実施。②必要に応じて生徒と担任等との面談を行い、いじめを許さない、見逃さない取組を行えた。③定期的なアンケートの活用及び面談を継続させながら、教員にささいなことでも相談できる雰囲気づくりをより高めていきたい。</p> <p>【第1学年】</p> <p>①1学期、2学期末にアンケート計2回行い、それに伴う個人面談を実施した。②生徒個々の悩みや心配事を聞くことができた。③保護者とも上手く連携しながら生徒の個性を大切にしていきたい。</p> <p>【第2学年】</p> <p>①1学期、2学期末にアンケートを実施。必要に応じて個人面談を実施した。</p> <p>②普段の生活では判断が難しい、生徒の小さな変化に気づくことができた。</p> <p>③いじめにつながるような事象が起こっていないか今後も観察を続けたい。</p> <p>【第3学年】</p> <p>①いじめアンケートを実施し、個人面談も丁寧に行った。</p> <p>②面談を通して、生徒の状況を知ることができた。</p> <p>③生徒の不安や悩みに気づけるように地道な声かけを続けていくことが、今後も大切である。</p>	A	A	定期的なアンケートの活用及び面談を継続させながら、教員にささいな事でも相談できる雰囲気づくりをより高めていく。
	教育相談及び特別支援教育の充実	教育相談、特別支援教育についての職員研修を実施する。	職員研修 年2回以上	<p>【生徒指導部】</p> <p>①教育相談及び特別支援教育の充実のための職員研修を年3回実施。②生徒の状況についての理解を深める研修ができた。③今後も、継続して生徒の状況把握等を共有できる研修を行いたい。</p>	A	A	生徒の状況把握と、先生方の取組の成果を共有できるような研修を進める。また、カウンセラーや特別支援員との連携をより強化する。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

令和5年度末の目標値(C)は概ね達成できた。  
2学期末に実施した生徒振り返りアンケートでは、「畝傍高校に来てよかった」は92.5%、1学期末に実施した保護者アンケートでは、「畝傍高校に通わせてよかった」96.0%と、高い評価を得られた。